

飛び歩記



立花俊治

飼い主のいない「地域ネコ」の糞尿などで地域の皆さんからどうにかならないかというご意見がたくさん寄せられていました。

ただかわいそうだとエサを与える人と被害で困っている人との軋轢もあり大きな地域問題になっていました。

不妊・去勢手術に補助金新設

後援会ニュース読者からの要望を受けて、昨年十二月市議会でもネコ飼育フレッツの作成や不妊・去勢の補助金新設を一般質問で取り上げました。

二年越しで実現、予算額は少ないですが、大きく育てて暮らしやすい地域目指して頑張ります。

よろしくお願いします。



3月議会で一般質問をする立花議員

「扶養義務範囲」は1親等なのに日本では3親等まで調査している

その中で、諸外国の「扶養義務範囲」は1親等なのに日本では3親等まで調査している

8日の本会議で、質問に立った立花市議は、格差社会の広がりと、コロナ禍の下、路頭に迷う市民の実情を示し、市の生活保護行政の在り方を質しました。

特に、生活保護申請をためらう要因の一番とされる扶養照会の問題点を指摘し、改善を迫りました。

2021年度予算を審議する定例市議会が2月24日から開かれています。総額923億円の予算には、中学校給食の実施、幼・小・中学校のトイレの洋式化、など党市議団と市民が求めてきた要望も盛り込まれています。

コロナ禍

扶養照会やめ、生きる支援を

立花俊治議員が一般質問 定例市議会

事実や、「扶養照会」は義務ではない」との田村厚労大臣の回答を今後の行政に生かすよう求めました。

また、明石、高砂など近隣市町と比べ、加古川の「保護率」の低さを指摘し、説明を求めました。

答弁に立った福祉部長は、扶養照会の見直しについては、厚労省の通知に基づき、3月から運用が

始まっている。国の実施要領を遵守し、適切に対応していくとし、保護率の低い原因は把握していないが、適正に業務を処理しており、他市との比較で改善すべきものとは考えていないと回答しました。

最後に、生活保護や就学援助については他市に遅れをとっており、審査基準が厳しいのではないかと指摘。厚労省のホームページには生活保護は権利と記されているが、市もこうしたスタンスで臨むよう求めました。

温暖化に逆行 廃プラごみ発電の再考を

岸本たてき議員

5日の本会議で岸本市議は、地球温暖化対策の現状や今後の対策、

ごみ焼却処分とCO2排出を続ける問題、PCR検査の拡充とワクチン接種の取り組みの現状、学校職員への駐車料金徴収問題などについて、質問を行いました。

廃プラ問題については、家庭から出るプラスチック類は、今後ともごみ発電として利用し、結果的に、温室効果ガス排出量を削減し、地球温暖化対策につながるとの回答でした。

PCR検査については、県において、策定、管理されているので、市独自策はなく、保健所からの人員不足の要請に應えるなどの検査体制の充実に向けた支援・協力を行つと回答しました。

福島原発事故10年

加古川でも記念集会で「再稼働反対」の声あげる

ちょうど10年前の2011年3月11日、東京電力福島原発は地震・津波に襲われました。3基の原子炉が同時にメルトダウンする重大事故を起こし、環境中に大量の放射性物質をまき散らしました。

それから10年。いまだ事故は収束せず、20年・30年後に完了するはずの廃炉の道筋も見えませんが積み重ねられて来ましたが、みなさん。一緒に原発に頼らない安全な社会をめざしましょう。

危険な原発からの転換を求める市民運動は、東日本大震災以降粘り強く続けられています。

加古川でも、加印革新懇と脱原発播磨アクションの共催で、実に100回以上の反原発行動が積み重ねられて来ましたが、みなさん。一緒に原発に頼らない安全な社会をめざしましょう。

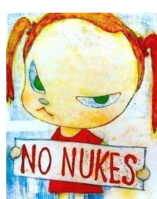
いま、野党は共同して「原発ゼロ基本法案」を提出、原発ゼロの日本をつくらうとしています。

日本共産党の志位和夫委員長は、「原発ゼロを実現する一番の早道は政権交代です。原発ゼロを実現する新しい政権をつくらうと呼びかけています。」

原発ゼロは政権交代で



3.11 加古川駅前での反原発集会



駐車料金徴収問題については、公用車の配備がない、交通不便地で公共交通機関が利用できないなど、

どの問題があるので、対象者・料金・時期について慎重に検討したいと回答しました。